Dominion®KX3G2

クイックセットアップガイド

DKX3G2は、エンタープライズ向けのデジタルKVM（キーボード／ビデオ／マウス）です。

このクイックセットアップガイドでは、全てのDKX3G2モデルにおける一般的なセットアップ手順について説明します。

本製品に含まれるもの

DKX3G2は、19インチのラックマウントシャシーを備えた標準的な1Uもしくは2U形状であり、パッケージには以下が含まれます。

- DKX3G2本体：1台
- ラックマウントキット：1セット
- AC電源コード：2本
- デスクトップ設置用ゴム足：4個

安全上の注意点

- ドアを閉じたサーバーラック内の温度は、室温より高くなる場合があります。本製品に定められた動作保証最大温度（45℃）を超えないようにご注意ください。詳細はオンラインヘルプの「Specifications」をご参照ください。
- サーバーラック内には、適切なエアフローを確保してください。
- 機械的荷重の偏りを防ぐために、本製品のラッキングの際には慎重に取り付けてください。
- 内部回路への過負荷を防ぐために、本製品を電源回路に慎重に接続してください。

必ず適切な接地（アース）を行うようにしてください。接地の無い環境でのご利用は推奨しません。

正面図



背面図



各項目の説明	
1	冗長電源・交流100V/240V
2	ネットワークポート（LAN1，LAN2）
3	USBポート（前面１，背面3）
4	HDMIポート（出力）
5	CLIポート
6	KVMポート・UTPケーブル(Cat5/5e/6)接続 ※モデル毎にポート数は異なる

ラックマウント

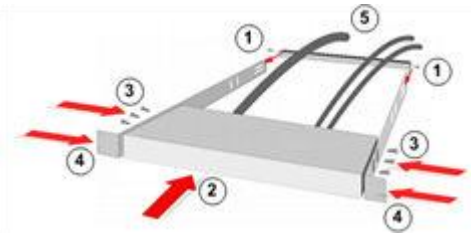
DKX3G2は、標準的な19インチラックにマウント可能です。

注：図と購入製品が完全に一致しない場合があります。取り付け手順は、モデル毎に異なることがあります。

▶ ラック前面への取り付け

各手順は下図の番号に対応しています。

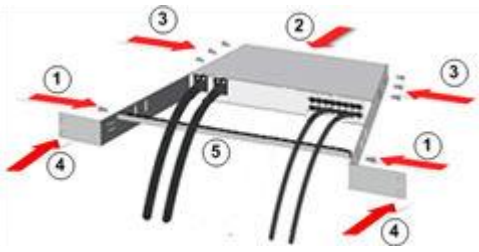
1. サイドブラケット後端にケーブルサポートバーを取り付けて、添付のネジ2本で固定します。
2. DKX3G2の背面パネルがケーブルサポートバーに向く位置にして、DKX3G2をサイドブラケットの間をスライドさせて、DKX3G2の前面パネルがサイドブラケットのフランジ（通称「耳」）と揃う位置まで挿入します。
3. DKX3G2を添付のネジ（片側3箇所ずつ）を使用してサイドブラケットに固定します。
4. 組みあがったアセンブリをラックに取り付けて、サイドブラケットのフランジをラック用のボルトとケージナット等を使用して固定します。
5. 背面パネルに電源ケーブルやUTPケーブルを接続する際には、ケーブルサポートバーに載せてください。



▶ ラック背面への取り付け

各手順は下図の番号に対応しています。

1. サイドブラケットのフランジ付近にケーブルサポートバーを取り付けて、添付のネジ2本で固定します。
2. DKX3G2の背面パネルがケーブルサポートバーに向く位置にして、DKX3G2をサイドブラケットの間をスライドさせて、DKX3G2の前面パネルがサイドブラケットの後端に揃う位置まで挿入します。
3. DKX3G2を添付のネジ（片側3箇所ずつ）を使用してサイドブラケットに固定します。
4. 組みあがったアセンブリをラックに取り付けて、サイドブラケットのフランジをラック用のボルトとケージナット等を使用して固定します。
5. 背面パネルに電源ケーブルやUTPケーブルを接続する際には、ケーブルサポートバーに載せてください。



本製品への接続

電源：DKX3G2に付属のAC電源コードを使用します。冗長電源によるフェイルオーバー機能を利用するためには、両方のAC電源コードを一次側へ接続する必要があります。

ネットワークポート: 標準のイーサネットケーブルを使用して、LAN1ネットワークポートをスイッチ、ハブ、ルーター等に接続します。

Failover（冗長）／Isolation（分離）のいずれかのネットワーク構成を利用するためには、LAN2ネットワークポートもスイッチ、ハブ、ルーター等にイーサネットケーブルで接続します。

USBポート: USBキーボードとマウスを、DKX3G2背面の「Local User」ポートに接続します。「Local User」ポートは、初期のネットワーク設定やターゲットサーバーへの接続用途に使用します。ネットワーク設定が完了後、DKX3G2へのリモートログインから他の全ての設定を行うことができます。また、Dominion Serial Access Modules（DSAM）は、任意のUSBポートに接続できます。

HDMIポート: HDMIケーブルでモニターと接続します。

ターゲットサーバー:

- CIMのキーボード、マウス、ビデオ端子をターゲットサーバーの各ポートに接続します。
- UTPケーブル（Cat5/5e/6）を使用して、CIMをDKX3G2背面の空いているKVMポートに接続します。

Dominion Serial Access Module（DSAM）: DKX3G2とDSAMを接続することによって、シリアル通信に対応しているスイッチやルーター等のデバイスにシリアルアクセスが可能になります。

- DSAMユニットのUSBケーブルをDKX3G2の任意のUSBポートに接続します。
- シリアルデバイスをDSAMユニットのシリアルポートに接続します。

DKX3G2の設定

初期設定のためにLocal Userポート経由で接続した際には、初回ログイン時にパスワードをシステムが要求するStrongパスワードに変更する必要があります。パスワードの更新後、IP アドレスを割り当てます。

DKX3G2の工場出荷時状態の設定は、以下となります。

Default login:

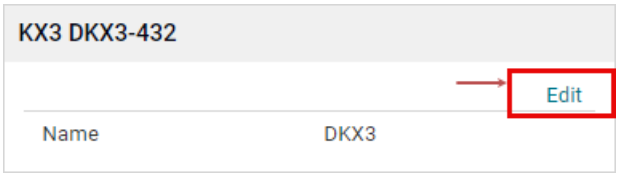
- Username = admin
- Password = raritan
- IP address = DHCP

これ以降の全ての手順は、WebブラウザでDKX3G2のIPアドレスにアクセスすることによって実行できます。Local Userポートによるアクセスは、幾つかの設定オプションが限定されます。

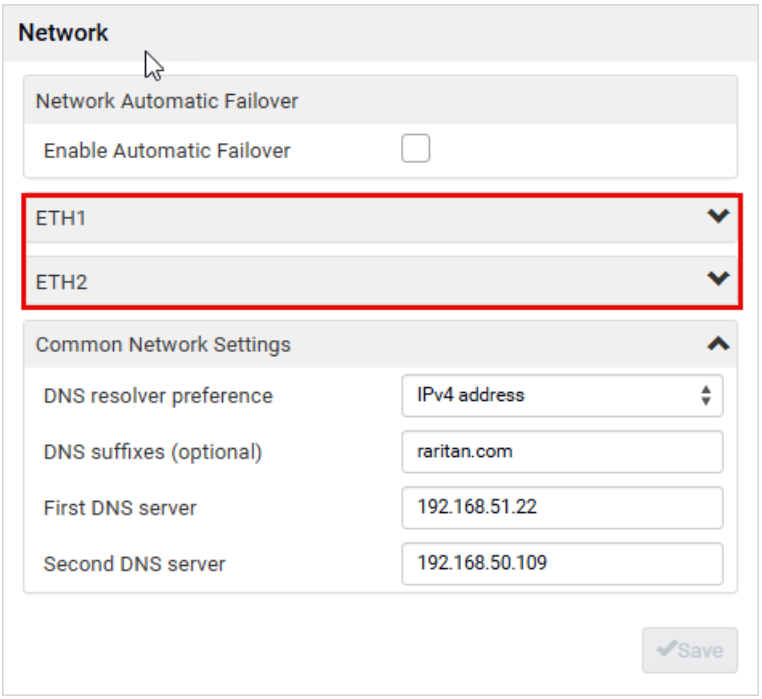
重要: バックアップと事業継続の観点から、バックアップ用の管理者ユーザーとパスワードを作成して、その情報を安全な場所に保管することを強く推奨します。

▶ デバイス名の設定

1. DKX3G2のIPアドレスにWebブラウザでアクセスします。
2. 新しく設定したパスワードでログインします。
3. 「Device Information」を選択して「Edit」をクリックします。



4. 「Device Name」を設定します。
   - 英数字および特殊文字を使用して最大32文字まで指定できます。 ※文字間でのスペース不可
5. 次に「Network」でIPアドレスとDNSを設定します。



ネットワーク上にFirewallがある場合の設定

TCP Port 5000:

5000/tcpを許可することでDKX3G2へのリモートアセスを有効にします。

TCP Port 443:

- 443/tcpポートを許可するとWebブラウザからDKX3G2へのアクセスを有効にします。

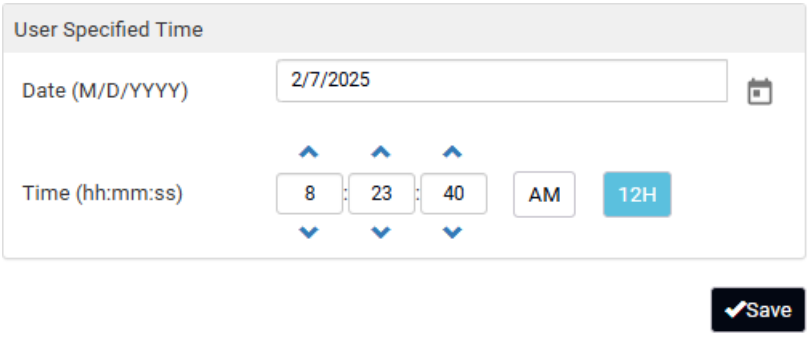
TCP Port 80:

HTTPリクエストをHTTPSへ自動でリダイレクトするために、許可します。

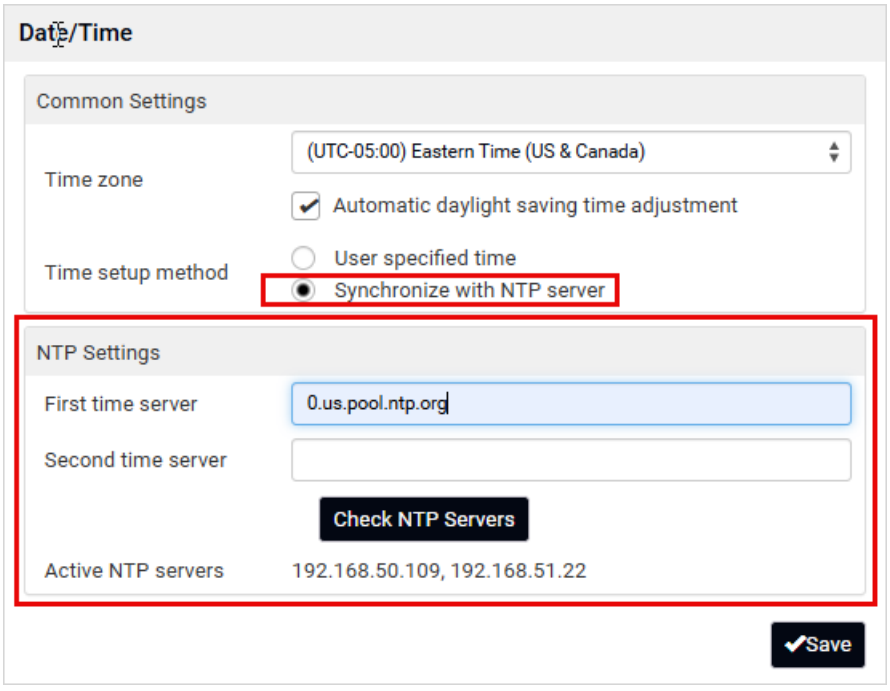
Date/Time（日付）の設定

設定は2種類用意されています。

- 手動設定



- NTP（Network Time Protocol）同期設定



注: DKX3G2にはNTPセキュリティ機能が追加されており、認証の有無にかかわらず日付と時刻の取得をリクエストできるようになっています。NTPサーバーが認証を使用するように設定されている場合、サーバーは認証キーを伴うリクエストを受け入れ、認証キーのデジタル情報とともに日付と時刻を返信します。DKX3G2はデジタル情報を検証し、キーが一致する場合はその日付と時刻を使用し、一致しない場合は受信した情報を破棄します。

► 日付／時刻の設定

1. 「Device Settings」>「Date/Time」を選択して「Date/Time」設定のページを開きます。
2. 「Time zone」のドロップダウンリストから任意のタイムゾーンを選択します。
3. 日本では「Adjust for daylight savings time（夏時間）」のチェックボックスはオフのままとします。
4. 日付と時刻を設定する方法の選択
   - 「User Specified Time」- このオプションを指定して、日付と時刻（hh:mm）を手動で入力します。
   - 「Synchronize with NTP Server」- このオプションを指定した場合、日付と時刻をネットワークタイムプロトコル（NTP）サーバーと同期できます。
5. 「Synchronize with NTP Server」のサーバーを指定します。
   - プライマリタイムサーバーのIPアドレスを入力します。
   - 必要に応じて、セカンダリタイムサーバーについても、前述と同じように入力します。

   注:「Network」ページでDHCPが選択されている場合、デフォルトではNTPサーバーの IPアドレスがDHCPサーバーから自動的に取得されます。NTPサーバーの手動設定を優先する場合、「Override DHCP」のチェックボックスを有効にして、NTPサーバーのIPアドレスを手動で入力してください。

   ---

6. 「Save」をクリックして保存します。

SSL証明書の作成とインストール

全てのDKX3G2にSSL証明書をインストールすることを推奨します。これにより、ブラウザ等の警告メッセージの表示回数が減り、中間者攻撃を防ぐことができます。また、将来的に発生しうるブラウザのセキュリティ更新によって、DKX3G2へのアクセスがブロックされることを防ぐこともできます。

SSL証明書の作成およびインストールについては、DKX3G2のオンラインヘルプを参照してください。

KVMターゲットサーバーの設定

Absoluteマウスモード（ずれないマウス）

ターゲットサーバーでのマウス設定を最小限としたい場合、Absoluteマウスモードの使用を推奨します。

このモードでは、ターゲットマウスの加速度や速度が異なっていても、クライアントとターゲットのカーソルを同期させるために絶対座標が使用されます。このモードはUSBポートを備えたサーバーでサポートされており、仮想メディア対応CIMの初期設定となっています。

このモードを使用するには、仮想メディア対応CIM（D2CIM-VUSB、D2CIM-DVUSB、D2CIM-DVUSB-DVI、D2CIM-DVUSB-HDMI、D2CIM-DVUSB-DP、D2CIM-VUSB-USBC）が必要です

ターゲットサーバーのビデオ解像度

オンラインヘルプの「Supported Target Server Video Resolutions」を参照してください。

Failover（冗長）／Isolation（分離）モードの選択

Failoverモード: Failoverモードでは、LANのステータスに基づいて、Failover時に使用するLANポートが決定されます。初期状態では、LANポート#1が切り替え対象となります。切り替え対象のLANポートのステータスが「down」の場合、ステータスが「on」のLANポートが見つかるまで、もう一方のLANポートに切り替えられます。

Isolationモード: Isolationモードでは、2つのLANポートに異なるIPアドレスが設定されます。これらは同じサブネットでも、異なるサブネットでも構いません。Isolationモードを設定すると、Failoverを利用することはできません。

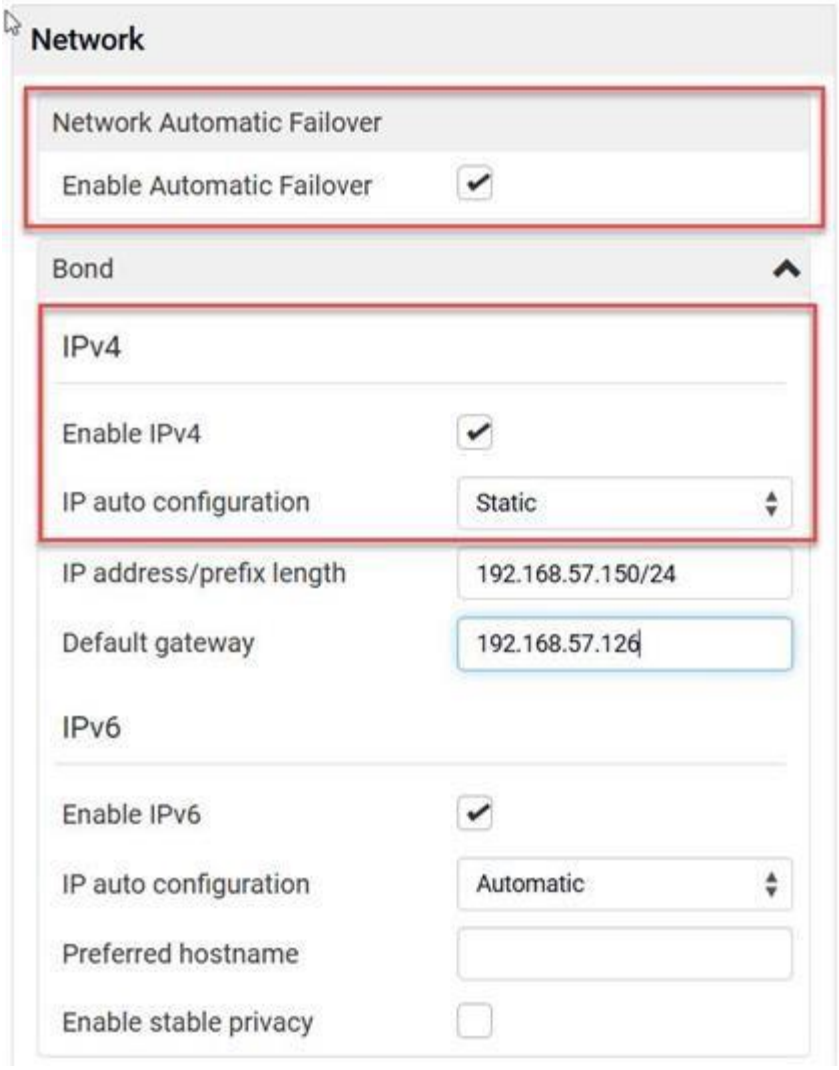
Failover（冗長）モードの設定

Automatic Failover機能を利用するためには、LAN1とLAN2を同じサブネット内の同じIPア

ドレスを共有します、LAN1がプライマリポートとなり、LAN1に障害が発生した際には、

LAN2が使用されます。

1. 「Device Settings」>「Network」を選択して「Network」設定ページを開きます。
2. 「Enable Automatic Failover」にチェックを入れて機能を有効します。
3. 「Bond」セクションを開くと、初期状態で「Enable IPv4」と「Enable IPv6」にチェックが入っています。
4. IPv4セクションで「IP Auto Configuration」を「Static」に変更します。
5. 「Default Gateway」のパラメータを手動で指定します。
6. IPv4のIPアドレスとPrefixを入力します。
7. 「Save」をクリックして設定を保存します。
8. これ以降Failover発生時には、LAN1の設定がLAN2に適用されます。
9. IPv6を設定する場合は、手順4～7を参考にします。IPv6を使用しない場合は「Enable IPv6」のチェックボックスからチェックを外します。



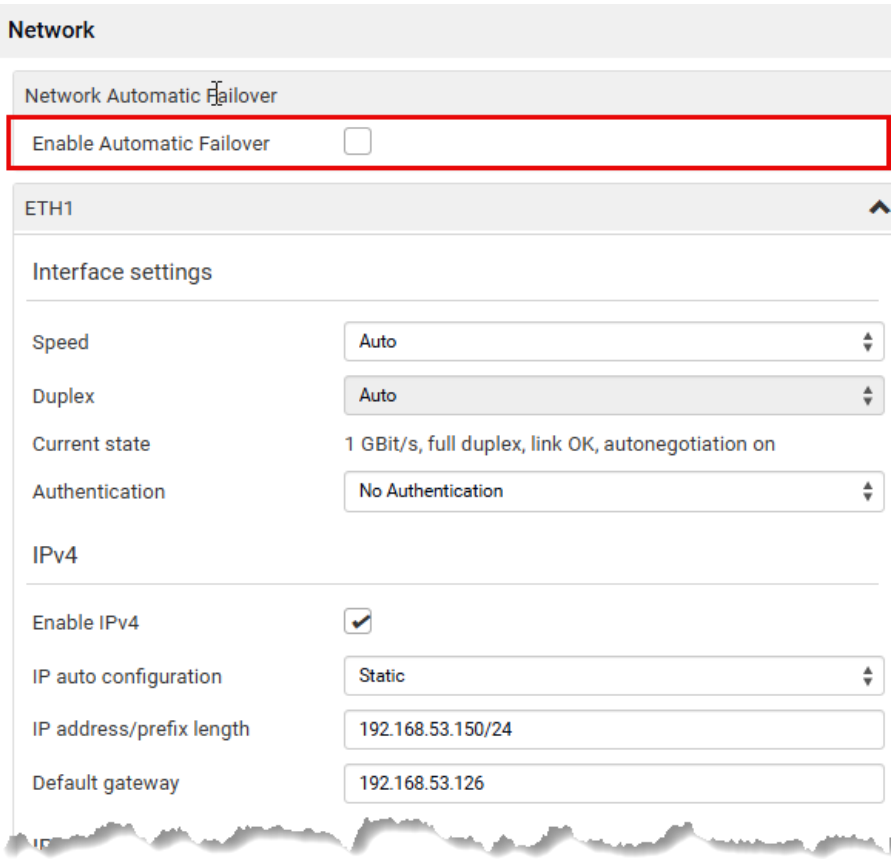
Isolation（分離）モードの設定

Isolationモードでは、それぞれのLANポートに異なるIPアドレスを設定して、個別にアクセスすることが可能となります。

注: Isolationモード選択するとFailover機能は利用できません。

---

1. 「Device Settings」>「Network」を開きます。
2. 「Enable Automatic Failover」のチェックボックスにチェックが入っている場合は、チェックを外します。
3. IPv4の「IP Auto Configuration」を「Static」に設定します。



4. 必要に応じて「Default Gateway」を入力します。
5. LAN1へ接続するためのIPアドレスを入力します。
6. LAN2の「IP auto Configuration」を「Static」に設定します。
7. LAN2の「Default Gateway」を入力します。
8. LAN2のIPアドレスを入力します。
9. 必要に応じてIPv6の設定をします。
10. 「IP Auto Configuration」を「Automatic」もしくは「Static」を選択します。

「Static」の場合は、手動で以下の設定を行います。

- IP Address - グローバルもしくは一意のIPアドレスを設定します。
- Prefix Length - IPv6アドレスで使用されるビット数を入力します。
- Default Gateway

「Automatic」を選択した場合、DHCPv6機能によりIPv6設定が自動で行われます。

このセクションには以下の情報が表示されます。

- Link-Local IP Address – このアドレスはDKX3G2に自動的に割り当てられます。Neighbor discoveryやルーターが存在しない場合に使用されます。
- Zone ID - アドレスが関連づけられているデバイスを識別します。

11. 「Use the Following DNS Server Addresses」を選択して、プライマリDNSサーバーと必要に応じてセカンダリDNSサーバーのアドレスを入力します。セカンダリアドレスは、プライマリアドレスが利用できない場合に参照されます。

注:「Obtain DNS Server Address Automatically（DNSサーバーアドレス自動取得）」と「Preferred DHCP Host Name（優先DHCPホスト名）」は、DHCPが有効である場合に使用されます。

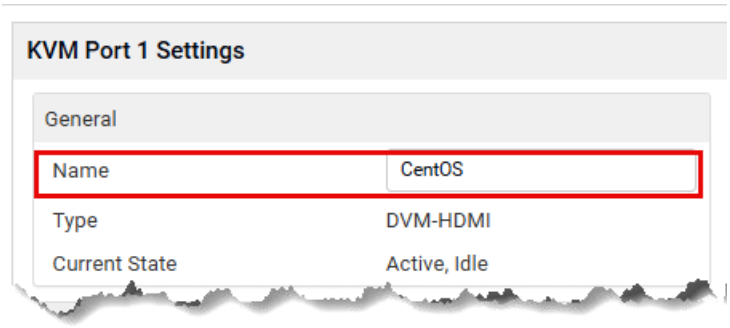
---

12. LAN1とLAN2に用意された「Speed」「Duplex」「MTU」について、必要に応じて設定します。
    - MTUの有効範囲: 576 - 1500
13. 全ての設定が完了したら「Save」をクリックして保存します。

ここまで完了しますとDKX3G2へネットワーク経由でのアクセスが可能となります。

ターゲットサーバーの名称設定

1. 先ずターゲットサーバーとなるコンピューターついて、CIMとUTPケーブルでDKX3G2へ接続してください。
2. 「KVM Ports」を選択して表示されたポートの「Settings」をクリックすると以下の画面が表示されます。



3. 「Name」セクションに任意の名称（英数字／特殊文字で最大32文字）を入力したら、「Save」をクリックして保存します。

電源の自動検出

DKX3G2は電源が二重化されています。

両方の電源ユニットが一次側に接続されていて「Auto Detect」が有効である場合:

- DKX3G2は両方の電源を自動的に検出します。
- DKX3G2は両方の電源ステータスを通知します。
- 「Power Supply」設定のページでは、自動検出を設定する「Powerln1 Auto Detect」と「Powerln2 Auto Detect」のチェックボックスが操作できます。

電源が1つしか一次側に接続されていない場合は、使用中の電源のみ自動検出を有効にできます。

電源が1つのみ一次側に接続されていて、且つ接続されていない電源のチェックボックスがオンになっている場合、DKX3G2のフロントパネルにある電源ステータスを表示するLEDは赤色に点灯し、チェックボックスがオフになっていると白色に点灯します。

▶ 使用中の電源の自動検出を有効にする手順

1. 「Device Settings」>「Power Supply」を選択します。
   - 電源ユニット1を一次側に接続した場合「Powerln1 Auto Detect」を選択
     (DKX3G2を背面から見た場合、左側が電源ユニット1です)

   あるいは
   - 電源ユニット2を一次側に接続した場合「Powerln2 Auto Detect」を選択
     (DKX3G2を背面から見た場合、右側が電源ユニット2です)
2. 「Save」をクリックして保存します。

リモートコンソールの起動

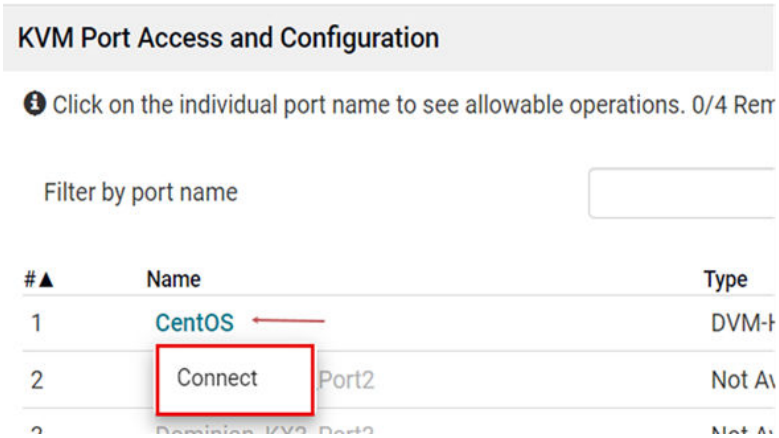
1. DKX3G2でサポートされているWebブラウザを使用して、DKX3G2に設定されたIPアドレスを入力すると、ログイン画面が表示されます。クライアントの詳細につきましては、オンラインヘルプの「KVM Clients」を参照してください。
2. User Name（ユーザー名）とパスワードを入力してログインします。
3. 必要に応じて「agreement（利用規約）」に同意します。
4. もし、セキュリティ警告が表示される場合は、同意してください。

アドバイス: Dominion KX III User Station（ユーザーステーション）をお持ちの場合は、PCの代わりにユーザーステーションでターゲットサーバーにアクセスできます。詳細はオンラインヘルプの「Dominion User Station」を参照してください。

ターゲットサーバーへのアクセスと制御

「KVM Port Access and Configuration」ページには、DKX3G2のポート一覧が表示されます。

ポート名に加えて、Status（稼働状態）やAvailability（アクセス状況）についても表示されます。

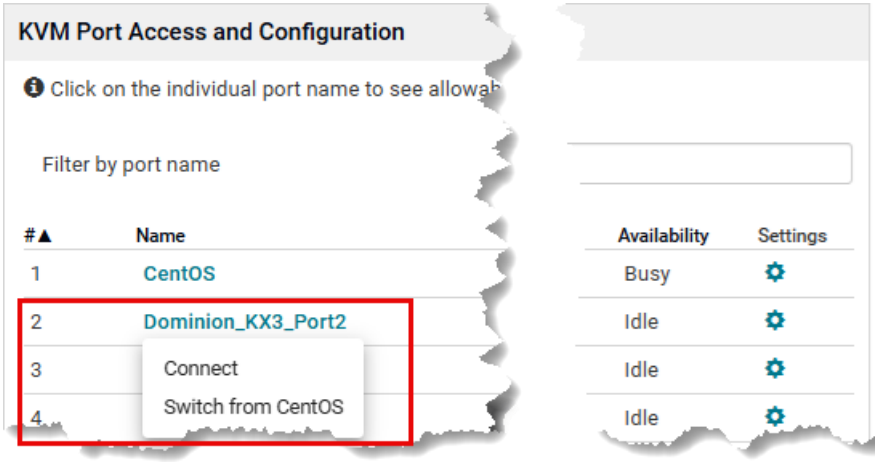


「KVM Port Access and Configuration」ページで、アクセス対象の「Port Name（ポート名）」をクリックすると、「Port Action Menu」が表示されます。

- 「Port Action menu」で表示された「Connect」を選択します。
- ターゲットへの接続が確立すると、KVMウインドウが表示されます。

ターゲットサーバーの切り替え（Switch）と切断（Disconnect）

▶ ターゲットサーバーの切り替え:



1 ターゲットサーバーに既にアクセスしている状態で、DKX3G2のポート名の一覧ページを表示します。

2 アクセスしたいポート名をクリックすると「Port Action Menu」が表示されます。

3 「Switch From xxx（接続中のポート名）」を選ぶと既存のKVMウインドウを閉じて、新しいターゲットサーバーを表示します。

▶ ターゲットサーバーへの接続を切断する場合

- 「KVM Port Access and Configuration」ページで、接続を切断したいターゲットのポート名をクリックすると「Port Action menu」が表示されるので「Disconnect」をクリックします。

  あるいは
- KVMウインドウを閉じることによって切断されます。

Additional Information

For more information about DKX3G2 and the entire Raritan product line, see Raritan's website (www.raritan.com). For technical issues, contact Raritan Technical Support. See the Contact Support page in the Support section on Raritan's website for technical support contact information worldwide.
Raritan's products use code licensed under the GPL and LGPL. You can request a copy of the open source code. For details, see the Open Source Software Statement at (https://www.raritan.com/about/legal-statements/open-source-software-statement/) on Raritan's website.